

2017年7月12日

東京電力ホールディングス株式会社御中

原子力民間規制委員会・東京

東京電力より4度目の回答があった(6月9日)。しかし、この回答も前回(4月28日)および前々回の回答(3月31日)と同様に、当方の質疑に回答せず、東電の主張を並べただけのものであった。東電は、当方の質疑に回答すれば矛盾が生ずるので、かような子供じみた行為を続けるのであろう。まったくむだな時間が過ぎてしまった。そこで、当方の質疑に回答を促すよう多少の加筆をするが、誠実に回答されるようお願いしたい。

ところで、民間規制委が、この質疑回答にこだわるのは、東京電力の安全技術の向上につなげたいからである。粗悪な技術のまま原発運転を再開し、また事故を起こされては堪ったものではない。

### 【規制勧告1 福島第一原発の教訓を採用せよ】について

#### 1. 3基ともにすべてECCSの使用に失敗

- (0) 福島第一の事故では、運転中の原子炉3基すべてECCSの使用に失敗し、これが原因で過酷事故になった。この事実について認否を求める。否の場合は、その理由を説明されたい。
- (1) 1号機では、自動起動した非常用復水器を手順書に従って何度も切断したことで過酷事故になった。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。
- (2) 2号機では、自動停止した隔離時冷却系を何度も再起動して維持したが、水源の復水貯蔵タンクの枯渇で失敗した。この事実についての認否を求める。否の場合は、その説明を求める。また、消防車によりタンクに水を補給しなかった事実についての認否を求める。否の場合は、その理由を問う。
- (3) さらに、この隔離時冷却系の水源として、圧力抑制室の水が沸騰状態であることを知りながら、これを使用した。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明を求める。
- (4) 3号機では、隔離時冷却系を再起動せず40分間放置して失敗した。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明を求める。

#### 2. 東電は目視によるデータを無視している

- (0) 福島第一 1、2、3号機には、運転員が目視してIAEAに提出したデータが存在する。この事実について認否を求める。否の場合は説明をされたい。

(注) 『2011年東北地方太平洋沖地震と原子力発電所に対する地震の被害』

2011年4月4日、原子力安全保安院、原子力安全基盤機構

- (1) この苦労して得たデータは、東電の事故解析に使用されていない。この事実について認否を求める。否の場合は、説明を求める。

(2) このデータによれば、1号機では水位・圧力の読取・記録を始めた時にはすでに炉心は空焚きになっていた。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。

つまり、1号機ではECCSは有効ではなかった。その原因は、地震により配管が破断されて、ECCSの水が炉心に注入できなかったからである。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。

(3) 2号機では、このデータによれば隔離時冷却系は2日間有効に働いた。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。

しかし、3日目にはこの隔離時冷却系が使用できなくなり、炉心が崩壊していく様子がこのデータにより明らかである。この事実について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。

(4) 3号機も、1号機と同様、データの読取・記録がなされた時にはすでに炉心は空焚きになっていた。この事実について認否を求める。否の場合はその説明をされたい。

この時、ECCSは有効であったとする東電の解釈は正しくない。正しいとする場合は、その説明をされたい。

(5) 今後の東電と民間規制委の質疑・応答には、このデータを活用したい。データ活用に応ずるか否か、認否されたい。否の場合は、その説明をされたい。

### 3. 非常用復水器等の機能強化の勧告

(1) 1号機の非常用復水器は、もともとその名前の通り単なるIC(孤立冷却器)であったが、その能力が高く、英語名はそのまま、日本語では「非常用復水器」と名付け、ECCSとしても使用することにしたと思われる。この判断について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。

非常用復水器には、水素が溜まるという欠陥がある。福一1号機では、その欠陥をそのままにして運転していた。この事実について認否を求める。否の場合は、説明を求める。

(2) 2, 3号機では残留熱除去系(RHR)に付属する蒸気凝縮系があり、ICと同様の機能を持っていた。しかし、浜岡原発での水素爆発事故の後、これを改良せず撤去して、2, 3号機を過酷事故にした。この判断について認否を求める。否の場合は、その説明をされたい。また、蒸気凝縮系に水素除去装置を加えて、ECCSとして復活し、使用されたい。

なお、非常用復水器および蒸気凝縮系の水源を事故に対応できるよう十分な大きさにして、また蒸気凝縮系でも、重力で原子炉に注入できるよう改良されたい。

(3) 東電は、2万トンの淡水池を高所に設置したというが、重力で原子炉や格納容器に注入できるように、さらに高い位置に巨大タンクを増設されたい。

### 4. 以上どれかの認否および説明がない場合、柏崎刈羽原発の運転は認められない。

以上